



*今月は「アンダーソン・クーパー360」に代わり、「ファリード・ザカリアGPS」を掲載します

A Year for the History Books

ウクライナ、米中関係、イギリス……

2022年の総括と 世界情勢の行方

2022年は未曾有の一年となった。新型コロナウイルス感染症はいまだに猛威を振るい続け、終息の気配を見せない。大国ロシアによるウクライナ侵攻は全世界を震撼させ、早くも開戦から1年が経過しようとしているが、終戦の見通しは立っていない。ファリード・ザカリアは国際社会のアナリスト2人を招き、2022年を総括するディスカッションを展開した。今回本誌で取り上げるのは、ロシア・ウクライナ戦争の影響、米国と中国の緊張関係、そして難局のただ中にある英国という3つの論点だ。



番組ホスト

ファリード・ザカリア

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。

ゲスト

ザニー・ミントン＝ベドーズ

英国人ジャーナリスト。英雑誌「エコノミスト」編集長。オックスフォード大学で哲学・政治・経済を専攻し、米ハーバード大学で修士号を取得。国際通貨基金（IMF）での勤務経験を経て、1994年にエコノミスト誌の記者に。2015年、同誌で女性として初となる編集長に就任。1967年、イングランド・シュロップシャー生まれ。



80 終わらないコロナ禍、戦争、不景気……



Fareed Zakaria

Twenty

twenty-two has been another stunning trip around the sun—one for the record books, maybe. As many around the world started venturing out after hunkering down at home for COVID-19, Russia invaded Ukraine. Oil prices spiked. Growth slowed. Inflation accelerated. *Roe* was overturned. Two British prime ministers resigned, and their nation faces a long recession. The queen died. Protests rocked Iran. Xi Jinping grabbed more power, only to have China hit by protests as well, after which Beijing loosened its zero-COVID policy. The big red wave in American politics—well, it wasn't. North Korea launched missiles on more than 30 days this year.

Joining me now to make sense of it all are Zanny Minton Beddoes, the editor-in-chief of the *Economist*, and Ian Bremmer, the president of

stunning:

驚くべき、びっくりさせる

venture out:

思い切って出かける、危険を承知で外に出る

hunker down:

身を潜める、避難する

invade:

～に侵攻する

spike:

①急上昇する ②急騰

inflation:

インフレーション、物価上昇

accelerate:

速度を増す、加速する

Roe:

= *Roe v. Wade* ロー対ウェイド判決 ▶米国において、妊娠中絶が認められた1973年の連邦最高裁判決。

overturn:

(判決などを)覆す、取り消す

resign:

辞職する、退く

recession:

景気後退、不景気

rock:

～を動揺させる、揺り動かす

grab:

～を強引につかむ、手に入れる

loosen:

～を緩める、緩和する

red wave:

▶より多くの選挙区での共和党の勝利。「赤」は米共和党のイメージカラー。

launch:

～を打ち上げる、発射する

make sense of:

～の意味を解き明かす

editor-in-chief:

編集長、編集主幹

The Economist:

エコノミスト ▶英国の週刊経済誌。

ファリード・ザカリア

2022年もま

た驚愕^{きょうがく}の一年でした。歴史に残る一年となるかもしれません。新型コロナのため自宅に引きこもっていた大勢の人が、思い切って外に出始めた頃、ロシアがウクライナに侵攻。原油価格が急騰。(経済)成長は鈍化。インフレは加速。(米国では、妊娠中絶を認めた)ロー対ウェイド判決が覆されました。イギリスでは2人の首相が辞任し、国は長期の景気後退に直面しています。(エリザベス)女王が崩御。イランでは抗議活動が国を揺るがしました。習近平国家主席はこれまで以上に強大な権力を手にしましたが、中国でも抗議活動が広がり、その後、中国政府はゼロコロナ政策を緩和しました。米政界では(中間選挙で)共和党が大勝——とはなりませんでした。今年(2022年)、北朝鮮がミサイルを発射した日数は30日を超えました。

ではここで、エコノミスト誌の編集長、ザニー・ミントン＝ベドーズ氏と、世界的なリスク専門のコンサルティングファーム、ユーラシア・